

平成26年8月 東京地区百貨店売上高概況

平成26年9月19日

I. 概況

1. 売上高総額	1,055億円余
2. 前年同月比	1.3% (5か月ぶりプラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭1.4%(89.0%) : 非店頭0.7%(11.0%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成26年7月対比±0店)
5. 総店舗面積	856,760㎡ (前年同月比: -2.2%)
6. 総従業員数	19,039人 (前年同月比: -0.5%)
7. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	1-3月 12.3%、2-4月 7.1%、3-5月 4.3%、 4-6月 -6.3%、5-7月 -3.2%、6-8月 -1.6%

[参考] 平成25年8月の売上高増減率は5.6% (店舗数調整後)

【8月売上の特徴】

- (1) 東京地区でも天候不順の影響を受けたが、各店が積極的に展開した集客施策が奏功して、入店客数はほぼ前年並みと堅調に推移した。その結果、売上高についても、消費税率引上げ後初めて前年実績を上回ることとなった。
- (2) 主力の衣料品 (+1.5%) は、下旬からの気温低下を受けて秋物が急伸び、5か月ぶりにプラスとなった他、食料品 (+0.3%) も物産催事などが好調で前年をクリアするなど、ほぼ全ての商品分野で7月の伸び率を上回り、全国に先駆ける形で回復基調を鮮明にした。
- (3) 都内各店における訪日外国人の動向は、8月も全国平均以上に好調に推移し、「化粧品 (+8.0%)」やラグジュアリーブランドを含む「身のまわり品 (+4.7%)」の売上を押し上げる要因となった。
- (4) 夏のクリアランスセールは、6月～8月の通期で前年実績を若干下回る結果となった。また、中元商戦については、店頭受注が前年を下回る一方、ネット受注がカバーする構図の中、通期業績では、ほぼ前年並みの結果であった。
- (5) 東京地区の9月中間段階 (9月16日) までの商況は、前月下旬からの衣料品を中心とした秋物商材の好調さを維持して、前年比3%強のプラスで推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.6日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 10店、②変化なし: 4店、③減少した: 5店
- (3) 8月歳時記 (旧暦お盆、夏休み、夏祭り) の売上 (同上/有効回答数12店舗)
①増加した: 6店、②変化なし: 5店、③減少した: 1店

東京地区百貨店 売上高速報 2014年08月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	105,535,021	100.0	1.3
紳士服・洋品	6,923,651	6.6	5.5
婦人服・洋品	18,354,070	17.4	-0.4
子供服・洋品	1,812,857	1.7	5.8
その他衣料品	2,336,249	2.2	2.2
衣 料 品	29,426,827	27.9	1.5
身のまわり品	15,332,143	14.5	4.7
化粧品	6,996,756	6.6	8.0
美術・宝飾・貴金属	6,976,594	6.6	-5.3
その他雑貨	5,822,413	5.5	2.1
雑 貨	19,795,763	18.8	1.3
家 具	1,503,808	1.4	-16.3
家 電	635,725	0.6	16.1
その他家庭用品	3,958,910	3.8	4.6
家 庭 用 品	6,098,443	5.8	-0.5
生 鮮 食 品	4,487,263	4.3	-0.1
菓 子	7,928,513	7.5	0.1
惣 菜	6,403,946	6.1	1.3
その他食料品	7,684,551	7.3	-0.0
食 料 品	26,504,273	25.1	0.3
食 堂 喫 茶	3,571,582	3.4	-1.1
サ ー ビ ス	2,386,889	2.3	2.3
そ の 他	2,419,101	2.3	-1.6

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商 品 券	1,977,263 千円	-2.7
従 業 員 数	19,039 人	-0.5
店 舗 面 積	856,760 m ²	-2.2

営 業 日 数	30.6 日	前年	30.6 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、先月は身のまわり品が唯一プラスに転じたが、今月は身のまわり品が2か月連続、衣料品、雑貨、食料品が5か月ぶりにプラスと、家庭用品を除く4品目がプラスとなった。紳士服・洋品、子供服・洋品、その他衣料品、化粧品が2か月連続、菓子が2か月ぶり、その他雑貨、家電、その他家庭用品、惣菜が5か月ぶりにプラスとなった。また、その他食料品も-0.0%と前年並みとなった。その他では、全国同様家具が先月よりマイナス幅を広げた以外は先月の伸びを上回った。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	1.3	—	5か月ぶりプラス
紳士服・洋品	5.5	0.3	2か月連続プラス
婦人服・洋品	-0.4	-0.1	5か月連続マイナス
子供服・洋品	5.8	0.1	2か月連続プラス
その他衣料品	2.2	0.0	2か月連続プラス
衣料品	1.5	0.4	5か月ぶりプラス
身のまわり品	4.7	0.7	2か月連続プラス
化粧品	8.0	0.5	2か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-5.3	-0.4	5か月連続マイナス*
その他雑貨	2.1	0.1	5か月ぶりプラス*
雑貨	1.3	0.2	5か月ぶりプラス
家具	-16.3	-0.3	5か月連続マイナス
家電	16.1	0.1	5か月ぶりプラス
その他家庭用品	4.6	0.2	5か月ぶりプラス
家庭用品	-0.5	0.0	5か月連続マイナス
生鮮食品	-0.1	0.0	5か月連続マイナス*
菓子	0.1	0.0	2か月ぶりプラス*
惣菜	1.3	0.1	5か月ぶりプラス*
その他食料品	-0.0	0.0	5か月連続マイナス*
食料品	0.3	0.1	5か月ぶりプラス
食堂喫茶	-1.1	0.0	5か月連続マイナス
サービス	2.3	0.1	2か月ぶりプラス
その他	-1.6	0.0	2か月ぶりマイナス
商品券	-2.7	-0.1	40か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>